

委員	質疑又は意見	事務局	回 答
<p>関野委員</p>	<p>（【第 1 号議案】平成 22 年度変更事業計画及び予算関係） 人間ドックの受診率及び健康増進利用券の執行率が当初予算時よりも下がっているが、これから 3 月末に向けて記載の率よりも上がる可能性があるのか、それとも最終的にこの程度の率になるということなのか伺いたい。 また、率が下がっている理由を教えてください。</p>	<p>望 月 （健康管理担当） 事務局長 （大庭）</p>	<p>人間ドックの受診率については、記載してある 89%が最終の見込であり、例年この程度の率で推移している。当初予算では 100%受けていただけるように計上したものである。 当初予算では、対象者全員に人間ドックを受けていただくことを目標としているが、希望しない方もいるということである。脳ドックや健康増進利用券等も同様で、目標値は高く設定している。 ただし、財源が厳しい中、受診率や執行率が上がればそれだけ所要額も増えることになることから、そのあたりをどう考えていくか、現在、支部保健事業検討委員会で検討・議論いただいている。</p>
<p>浅羽委員</p>	<p>支部保健事業検討委員会中間報告書によれば、脳ドック事業の中に「必要性や効果の検証等が必要」とあるが、これはどういうことを意味しているのか。必ずしも必要性があるといえないとか、効果が確かでないということなのか。 また、それと受診率が低いこととの関連性があるのか教えていただきたい。</p>	<p>事務局長</p>	<p>現在対象としている 46 歳、51 歳及び 55 歳以上という年齢でよいのか、ということである。医師に意見を聞いてみることも必要だと考えている。 当然、効果はあると考えているが、脳卒中の発生が 40 歳代に多いと聞いており、例えば 40 歳で実施した方がいいとか、年齢については他の選択肢もあるのではないかとということで検討が行われている。</p>
<p>浅羽委員</p>	<p>対象年齢の再検討、ということよろしいか。</p>	<p>事務局長</p>	<p>そういうことである。</p>
<p>会 長</p>	<p>先日、脳ドックを受診して「認知症検査」というのが非常に参考になった。</p>	<p>事務局長</p>	<p>他にも PET 検査などいろいろな検査があるが、費用の高いのがネックである。 自主的に脳ドックを受診して異常が発見されたが、その後治療・回復して教壇に復帰されているような例もあり、脳ドックが組合員に定着しているのならば、もっと高度な検査を導入することも考えられる。ただし、理想は高く持っているものの、現実的には財源が厳しい状況ということも御理解いただきたい。</p>

委員	質疑又は意見	事務局	回 答
鈴木弘美 委員	<p>【第 2 号議案】平成 23 年度事業計画及び予算関係） 健康増進利用券の利用率が低いということであるが、支部保健事業検討委員会中間報告書に、以前取扱いのあった「医薬品等の取扱いも必要と考える等の意見もある」とある。これについての今後の方向性や、現在検討されていることがあれば伺いたい。</p>	事務局長	<p>本部の保健事業検討委員会報告書の中に、物配り的な事業については見直したらどうか、という意見がある。そういうものも視野に入れながら現在、支部保健事業検討委員会の中で検討していただいているが、利用券が物配り的な事業かどうかという判断の問題もある。</p> <p>当然、利用の拡大を目指していきたいが、福祉財源が減少している状況と、どう調整を図っていくのか、23 年度の支部保健事業検討委員会で検討していきたい。23 年度はこれまで同様に実施させていただくが、24 年度以後は、保健事業全体の状況を踏まえて計画させていただくことになると思う。</p>
鈴木伸昭 委員	<p>短期経理の休業給付について、23 年度も 22 年度と同額の支出見込みとなっている。今後、特別休暇の期間が改正されることによって特別休暇から休職に切り替わる時期が前倒しとなり、休業給付が増加することはないのか。また、あるとすれば財源に影響を及ぼすことはないのか伺いたい。</p>	事務局長	<p>これについての影響額は見込んでいない。短期経理については、静岡支部はかなりの額を本部に送金している状況なので、その中で運用させていただく。</p> <p>どんな影響が出るか見込みづらいが、23 年度は若干増加することになるかもしれない。24 年度以後は平準化されるのではないかと考えている。</p>
鈴木伸昭 委員	<p>大きな影響がなければ結構です。</p>		
鈴木弘美 委員	<p>今後も、広報誌でタイムリーな情報を的確に組合員に提供していただけないかと感謝している。 年金等に関して、定年延長等に絡んで多くの方が不安を持っているので、そういった情報について、必要な方が手に入れやすいような発信をお願いしたい。</p>	事務局長	<p>ライフプラン講習会等以外にも、機会をいただければ担当を派遣して説明させていただく。</p> <p>広報誌の場合、掲載内容に制限があるが、直接お話しさせていただくことで、効果も上がると思うので、そういう機会をいただければ、こちらとしてもありがたい。</p>

委員	質疑又は意見	事務局	回 答
木藤委員	6 月の支部運営審議会で配布された資料に休職者のデータがあったが、この中には特別休暇の者も含まれているか。	事務局長	休職者「等」ということで、休職者と特別休暇が含まれている。
木藤委員	特別休暇の期間が短縮されることもあり、休職者と特別休暇とを分けてお示しいただけないか。	事務局長	特別休暇の期間短縮による影響については、当方も確認していかねばならないと考えている。ご指摘どおり今後は、分けたものを資料にして、機会あるごとに提示していきたい。
水元委員	<p>特別休暇・休職の関係は、県教委各課を越えて状況の把握、対応をしていきたい。</p> <p>定年延長に関しては、年金の支給や財源にどのような影響を与えていくのかとともに、人間ドックや脳ドックの効果や対象年齢の検証にも影響を与える。</p> <p>これらのことについて、関係各課等と連携しながら整理、情報収集し、話し合いや協議に努めたいと思う。</p>		
太田委員	<p>健康診断の受診率が 100% でない、再検査の勧奨が十分にできていないなど、義務教育の現場において課題が残っていると認識しており、今後も努力していかねばならないと考えている。</p> <p>職場の健康づくり支援事業について、校長会でも利用するよう話してきた。自校では利用の方向で調整してきたが、利用に至っていない。ネックは多忙化ということになってしまいかもしれないが、そんな中でも視点を変えて、健康の維持・増進に少しでもつながるような配慮について、いろいろな立場の方が声を上げていかねばいけないと思う。</p> <p>教職員体育大会について、課題があることは皆さん認識していると思う。県立の実施率が低いこと、義務でも例えば夏期休業中の研修とタイアップするような方向でも動いているが、マックスの受け止め方で縮小・廃止の声が出てきてしまうことは残念でならない。大会にはお金では買えない意義がある。意識を変えていくために、校長会・校長協会や職員団体等が一緒になって合意形成が図れる場があればいいと思う。</p>	事務局長	<p>職場の健康づくり支援事業については、今後も引き続き、校長会や校長協会にいろいろなデータをお示ししながら、利用をお願いしていきたいと考えている。</p> <p>教職員体育大会については、仰るとおりいろいろな課題があるが、ストレス解消や他校教職員との交流など、大会の意義もある。ただし、世話人の御苦勞が多いというのが大きな課題である。</p> <p>今後、支部保健事業検討委員会でも、そういう部分が議論になってくると思う。委員の皆様方の所属団体等からも代表者の推薦をいただいているので、検討委員会で議論を深め、理想形が導き出せればいいと思っている。</p>

